

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第60号 2019年11月7日発行

+++++

農山村の畑作は野生動物の食害、栽培者の超高齢化、自然災害、人口の過疎化の結果として耕作放棄地は拡大し、いよいよ伝統的な栽培知識・技能、雑穀など在来品種の絶滅の危機に瀕しています。しかし、現在でもこれらの伝統を失ってよいとは思いません。雑穀街道普及会は、雑穀栽培者と賛同者を増やすように、普及啓発活動を活発にします。植物と人々の博物館は雑穀街道地域における在来作物の普及・啓発に協力したいと思います。ご関心のおありになる方は、ぜひ雑穀街道普及会にご参加ください、ご協力をお願いします。

植物腊葉標本の他、写真スライドなど、図書を整理しています。これらを利用していただけるとうれしいです。会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。友の会会員になっていただければうれしいです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人にぜひ広く転送伝達していただけるとありがたいです。

なお、自然文化誌研究会の全体の環境学習活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。

○報告

1. 雑穀街道普及会：

11月5日、藤野のcaféてくてくて、今後の活動について話し合いました。雑穀街道普及会藤野を来年1月に向けてつくり、相模原市へ活動助成の申請をするそうです。

2. 学大探検部関係：

東京学芸大学冒険探検部は部員が学生サークル届を出さずに廃部になりました。事後処理はOB会が担当するそうです。いずれまた復活すればよいのです。10月26日に恒例の成合会があり、北方農耕文化を調査（1980年代）したメンバーを中心に8名が参加しました。故成合君は交通事故で亡くなりましたが、その前夜に部室の黒板に「学大探検部頑張れ」と書いていました。小西君も「学大探検部は永遠なり」と言っていました。日本の若者が冒険心を衰退させ、中高年の倫理観の低下にもまことに憂慮しますが、それでも、日本のフロンティアで花のように、じねん（自然）に生きている方々は確かにいます。成合君の遺言はもちろんですが、本来、冒険心は自分事ですから、希望は探求し続けます。

3. 新しく始まった古民家旅館（細川邸）の宿泊者が来館くださるようになりました。旅館の担当者と利用合意ができて、図書室として活用していただけるとよいです。

○予定

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日：2019年11月12日、22日、29日、12月6日ほかの予定（原則金曜日）です。植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力い

ただきたく、よろしくお願ひします。ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。森とむらの図書室（小菅と藤野）では順次資料の整理をし、蔵書リストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

場所は小菅村井狩集落バス停近く、旅館（細川邸）の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。

2) 極小展示： ヨーロッパの観光旅行で集めた小物工芸品など

3) 栽培保存種子： 雑穀類アワ、キビ、ヒエ、モロコシ、ハトムギ、オオムギ（六条、モチ在来）、コムギ、半白キュウリ、香辛料ディルなどの種子が欲しい方にはお送りします。ぜひ来年に楽しく栽培して増やしてください。

4) FAO 世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道普及会』の資料を充実しています。雑穀街道に関する趣旨説明や植物と人々に関する自然誌・文化誌の講義など、博物館担当研究員が無償出張で行いますので、ご連絡ください。

5) 日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。

6) 民族植物学ノオトは次の第 13 号からは電子出版のみにする予定ですが、原稿は年末までの受付予定です。いつでもご寄稿を歓迎します。①南アジアの植物信仰、②まねごと山村農などを準備しています。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも全号所蔵されています。さらに国会図書館のオンライン資料に URL を登録します。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。会誌ナマステは自然文化誌研究会のホームページで読めます。

7) 電子版書籍：今のところ出版の意思はないので、いずれ国会図書館のデジタル e デポに登録するように問い合わせました。順次必要に応じて改訂していきませんが、下記の雑穀・民族植物学関係個人ホームページで読めます。

『環境学習原論—人世の核心』（2019）は自然文化誌研究会の冒険学校の到達点でもありますので、是非一読いただきたいです。

『自分で考える日本国憲法』（2019）は憲法の加筆修正について、市民として強い関心がある条項に関して考え、提案をしてみました。

『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえ、自由に書いています。「第 1 章補論 1 民族と国の用語法」、「第 4 章補論 4 北東部諸州」を公開しました。次は「第 2 章の加筆修正、補論 2 農耕／言語伝播仮説」、第 4 章東部諸州についてまとめていきます。

『日本雑穀のむら』は第 5 章中部地方の雑穀文化複合、補論 3 副食主菜の起源を検討しています。

『第四紀植物』および“Essentials of Ethnobotany”はまだ非公開ですが、栽培植物の

起源の進化植物学、伝播の民族学などを書き進めています。

8) 森とむらの図書室

寄贈冊子：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。

会員雑誌：雑穀研究、南アジア研究、環境文明 21 会報。

2. 雑穀街道普及会：

賛同者を広く募っています。FAO 世界農業遺産申請に向けて賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO 世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いいたします。

また、普及作業と一緒にして下さるとありがたいです。

下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」で閲覧していただけます。

ご確認の上で、賛同の意思表示をお寄せいただければうれしいです。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnpmilvil.html>

○ お知らせ

1. 家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン

ご関心の方は是非ご入会ください。連絡先は下記です。

E-mail: info@ffpj.org URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/>

Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

家族農業について学びたいです。「小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン」には個人で賛同し、ホームページに意見を掲載していただきました。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

2. 環境文明 21 憲法部会

開催日は未定ですが、参加希望の方はご連絡ください。

~~~~~

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージズ研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）、川上香

(長野) ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~

写真：野川公園の10月桜

